

いわき・相馬海域におけるホッキガイ稚貝の発生状況

福島県水産試験場 栽培漁業部

1 部門名

水産業—資源管理—保護水面、ホッキガイ

2 担当者

佐藤利幸・岩崎高資

3 要旨

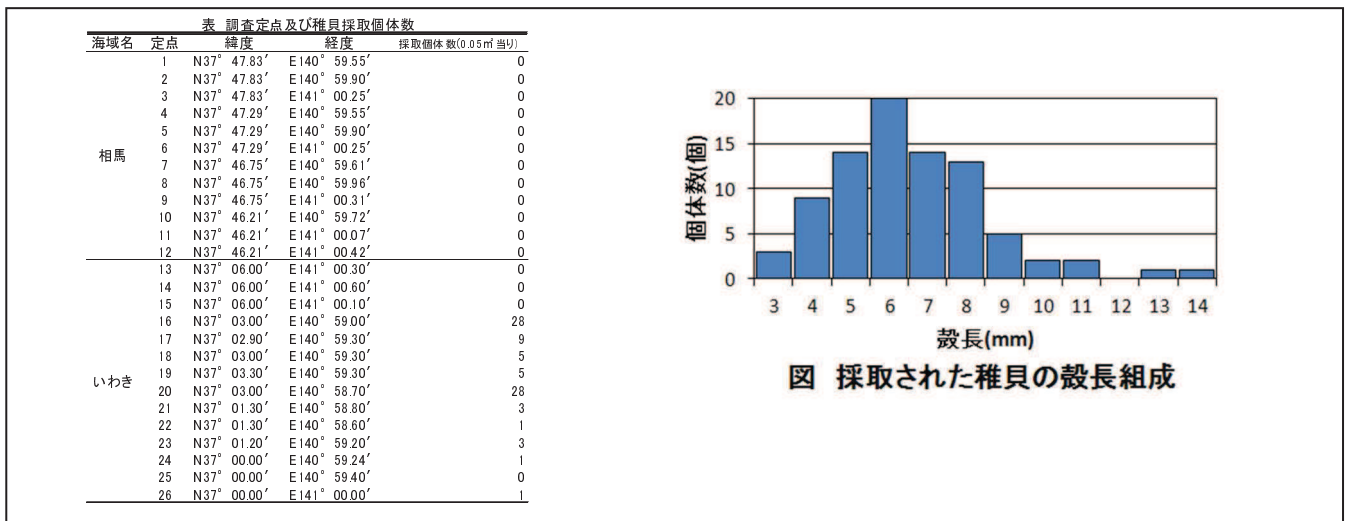
福島県海域に分布するホッキガイは、2003年に高水準の稚貝発生が確認されて以降、目立った発生は確認されていない。東日本大震災後、ホッキガイの操業も自粛されているが、2012年に発生したホッキガイ稚貝(以下、稚貝)の着底状況を把握することを目的とした。

(1)2012年12月に、いわき海域14点及び相馬海域12点の合計26点において調査を実施した。各地点で採取した海底土(面積0.05㎡)を1mm目合いのふるいにかけて、ふるい上に残った稚貝を計数し殻長を測定した。

(2)相馬海域ではいずれの地点でも稚貝は採取されなかったが、いわき海域では10点で、1~28個/0.05㎡の密度で稚貝が採取された(表)。

(3)採取された稚貝の殻長は、3~14mm台、モードは6mm台で、例年に比べサイズは小さめであった(図)。

(4)2012年における稚貝の発生は、高密度の地点が局所的に数カ所で確認され、今後の動向を注視する必要がある。



4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成24年度

(2) 研究課題名 漁場環境保全技術に関する研究(津波被害に対応した藻場・干潟調査)

(3) 参考となる成果の区分 (発展見込)

5 主な参考文献・資料

なし